

中国の初等中等教育における休校中のオンライン授業の実態調査

A Survey on Online Lessons of Primary and Secondary Education during School Closures in China

王丹萱^{*1}, 劉星辰^{*1}, 古舒華^{*1}, 森本康彦^{*1}

Danxuan WANG^{*1}, Xingchen LIU^{*1}, Shuhua GU^{*1}, Yasuhiko MORIMOTO^{*1}

^{*}東京学芸大学

^{*1}Tokyo Gakugei University

あらまし: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により世界中の多くの初等中等教育の学校が休校になった。これに対して、中国では、ICT活用やインターネットの利用が推進され、特に、大規模なオンライン授業を開始した。しかしながら、中国の初等中等教育において、休校中に、どのような授業が実施され、どのような課題があったかについては明らかにされていない。そこで、本研究では、中国の初等中等教育における休校中のオンライン授業の実態と課題を明らかにすることを目的に、中国の初等中等教育の教員を対象とし、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。

キーワード: オンライン授業, 初等中等教育, 新型コロナウイルス感染症, ICT活用, 中国

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、世界中の多くの学校で休校の措置をとることになった⁽¹⁾。これに対して、中国では、早期の段階の2020年2月から、「学校を止めても学びは止めない」という方針のもと、ICT活用やインターネット利用が推進され、特に、オンライン授業が積極的に行われるようになった。たとえば、小中高教員、児童生徒を対象としたオンライン教育プラットフォームの無料開放や、中国教育テレビ CETV4 より児童生徒に向け無料授業動画の配信などが行われた⁽²⁾。しかしながら、中国の初等中等教育において、休校中にどのようなオンライン授業が実施され、どのような課題があったかについては十分に明らかにされていない。

そこで、本論文では、中国の初等中等教育における休校中のオンライン授業の実態と課題を明らかにすることを目的とする。具体的には、休校中のオンライン授業について、山東省、河南省を中心とした中国の小中高教員に対してアンケート調査とインタビュー調査を実施した。本論文では調査の結果と考察述べる。

2. 調査方法

本研究では、中国の初等中等教育における休校中のオンライン授業の実態を調査するため、2020年4月から5月の期間で、中国の初等中等教育の教員603名(小学校:181名, 中学校:147名, 高校:275名)を対象とし、Webアンケートツールを用いて、アンケート調査を行った(表1)。

このうち、休校前にオンライン授業の経験がある教員は190名(31.5%)

で、経験がない教員は413名(68.5%)であった。加えて、アンケート調査を実施した教員のうち、9名(小学校:3名, 中学校:3名, 高校:3名)を対象にインタビュー調査を実施した。

アンケートは、「オンライン授業の形態(単一回答2項目)」、「同期型のオンライン授業の実施方法(複数回答1項目)」、「オンライン授業で扱ったツール(複数回答1項目)」、「授業外に児童生徒の学習状況を把握する方法(複数回答1項目)」、「休校後の学校教育のあり方(2件法1項目)」、「オンライン授業に対する印象(5件法5項目)」の全11項目と、「オンライン授業のメリットとデメリット」に関する自由記述で作成した。また、インタビュー調査では、「オンライン授業を行った際に感じたこと」の回答を求めた。

3. 調査の結果

3.1 アンケート調査

本論文では、特にオンライン授業での形態や実施方法、デメリットとメリットについて結果を述べる。

「オンライン授業の形態」については、同期型と非同期型を組み合わせた授業形態(以下、ブレンド型)が315名(52.4%)と最も多く、非同期型のみでの授業形式は105名(17.41%)と最も少なかった(図1)。

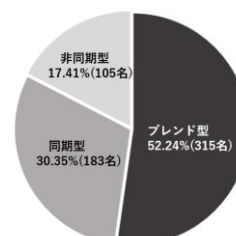


図1 オンライン授業の形態

「同期型のオンライン授業の実施方法」については、「挙手機能等を利用し、教師の質問(発問)に対して、児童生徒が自ら答える形で授業を行っている」と回答した教員が、同期型とブレンド型

表1 対象者の地域の内訳

地域	割合(人数)
山東省	52.90%(319名)
河南省	11.94%(72名)
浙江省	11.28%(68名)
上海市	4.48%(27名)
江蘇省	2.99%(18名)
重慶市	2.82%(17名)
海南省	2.65%(16名)
広東省	1.66%(10名)
北京市	1.49%(9名)
その他	7.79%(47名)

表2 同期型のオンライン授業の実施方法

項目	オンライン授業の形態	
	同期型(n=183)	ブレンド型(n=315)
挙手機能等を利用し、教師の質問(発問)に対して、生徒が自ら答える形で授業を行った	126(68.85%)	191(60.63%)
授業中、児童生徒のカメラを起動させ、児童生徒の表情などを見ながら授業の進め方を調整する	111(60.66%)	165(52.38%)
授業中、投票機能等を利用し、教師の質問(発問)に対して、生徒が回答する形で交流を行った	75(40.98%)	122(38.73%)
授業前、教師がテーマを提示して、生徒がそのテーマにあった作品を制作し、授業中に発表する	70(38.25%)	130(41.27%)
教師が提示した単元や授業内容に対して、生徒がグループで議論を行い、その内容を発表する	27(14.75%)	84(26.67%)
その他	3(1.64%)	4(1.27%)

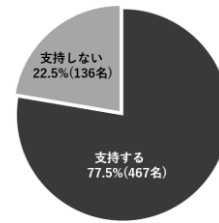


図2 オンライン授業と従来の授業を組み合わせることに対する意識

方法について研修をおこなった」、「オンライン授業の設計は普段の対面授業とあまり変わらなかったと言っている教員が多かった」といった回答が得られた。また、「自律性の高い生徒と自律性の低い生徒に対する学習効果の差が以前よりも大きくなった」といった回答も得られた。

表3 授業外に児童生徒の学習状況を把握する方法

項目	オンライン授業の形態		
	同期型(n=183)	非同期型(n=105)	ブレンド型(n=315)
児童生徒は宿題や課題を教員に提出し、教員は提出されたものを確認する	158(86.34%)	88(83.81%)	248(78.73%)
児童生徒から教員にチャットや電話等で連絡できるようにしている	120(65.57%)	77(73.33%)	182(57.78%)
宿題や課題などを積極的に行わない児童生徒に対し、教員がチャットや電話などで連絡をとる	101(55.19%)	63(60%)	177(56.19%)
学習補助ツールを活用し、児童生徒を提出した宿題や課題などを自動的に分析し、教員はその分析結果を確認する	95(51.91%)	35(33.33%)	158(50.16%)
保護者と連絡をとる	101(55.19%)	49(46.67%)	177(56.19%)
児童生徒をグループに分けて、定期的に各グループの代表者からグループ内の児童生徒の学習状況を聞く	39(21.31%)	20(19.05%)	115(36.51%)
その他	3(1.64%)	5(4.76%)	2(0.63%)

合わせて317名と最も多かった。(表2)。

「授業外に児童生徒の学習状況を把握する方法」については、「授業後、児童生徒は宿題や課題を教員に提出し、教員は提出されたものを確認する」と回答した教員が全ての授業形態で一番多かった。また、非同期型の授業のみを実施した教員は、授業中、児童生徒の状況を把握できないことから、授業外では他の授業形態よりも、電話やチャットを活用した交流を通して学習状況を把握しようと工夫している傾向がうかがえた(表3)。

「オンライン授業のメリットとデメリット」に関する自由記述について、メリットに関しては、「時空を超えて、児童生徒が学ぶことができる」、「授業の実施方法がより多様になる」、「児童生徒は自分のペースで学ぶことができる」などの回答が多く得られた。デメリットに関しては、「学びの雰囲気を作るのが難しい」、「児童生徒との交流が普段の授業より少ない」、「児童生徒の学習状況を把握することが難しい」、「児童生徒が積極的に授業活動を参加させることが難しい」、「児童生徒の自己管理能力が低い」などの回答が多く得られた。

最後に、「休校後の学校教育のあり方」において、従来の授業とオンラインでの授業を組み合わせることに対して、77.5%の教員が支持していた。(図2)

3.2 インタビュー調査

インタビュー調査では、「年配の教員だけではなく、若い教員でもオンライン授業を開始した当初は、ICTのツールの活用方法がよくわからなかった。そのため、学校で教員を対象に主にICTツールの活用

4. 考察

調査結果から、休校中のオンライン授業においては、ブレンド型が多く、オンライン授業のメリットとして、いつでもどこでも利用でき、自分のペースで進めることができることが挙げられる。一方で、アンケートで「児童生徒の学習状況を把握することが難しい」などの意見が得られたことや、インタビューで「自律性の高い生徒と自律性の低い生徒に対する学習効果の差が以前よりも大きくなった」といった意見が得られたことから、生徒が主体的に学んでいくことが難しいことや、生徒の学習状況の把握に課題があることが浮き彫りになった。したがって、オンライン環境でICTを活用した授業を設計する際には、児童生徒とのコミュニケーションを取って児童生徒の学習状況を把握すること、児童生徒が主体的に学ぶことができるような工夫が重要だと考えられる。また、図2の結果から、アフターコロナにおけるオンライン授業と従来授業を組み合わせた授業方法やICTの活用方法が今後の課題であろう。

5. おわりに

本論文では、アンケート調査とインタビュー調査から中国の初等中等教育における休校中のオンライン授業の実態状況と課題を明らかにした。本論文で明らかとなった課題は中国だけではなく、日本のオンライン授業においても同様の課題が存在すると考えられる。今後は、より詳細に調査の結果を分析するとともに、調査の結果を、今後の学校教育にどう活かせるかについて検討していく予定である。

参考文献

- (1) UNESCO: "The Importance of Monitoring and Improving ICT Use in Education Post-Confinement" (2020)
<http://uis.unesco.org/en/blog/importance-monitoring-and-improving-ict-use-education-post-confinement> (参照日 2020.5.28)
- (2) 教育部: "工业和信息化部办公厅关于中小学延期开学期间“停课不停学”有关工作安排的通知" (2020)
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3321/202002/t20200212_420435.html (参照日 2020.5.28)